

# 主な国際会議開催

## 1 日・尼 第8回研究連携ワークショップ（インドネシア：2013年1月30日～2月1日）

このワークショップは、2009（平成21）年11月に締結した国総研とインドネシア公共事業省道路研究所（Institute of Road Engineering（IRE））との研究協力に関する覚書に基づき、インドネシア国ジャカルタ市で開催された。本会合では、IREとの間で合意した研究連携活動のうちの5分野（「2輪自動車の交通モードへの位置付けプロジェクト」、「画像処理技術を用いた交通量計測手法（IPT）」、「事故多発地帯対策プロジェクト」、「トンネル・地下構造物」及び「天然アスファルト素材・アスブトン活用プロジェクト」）についての発表及び討議を行い、進捗状況の確認、情報共有をした。

## 2 日・印 第4回研究連携ワークショップ（インド：2013年2月18日～2月23日）

このワークショップは、2010（平成22）年1月に締結した国総研とインド内務省国立災害管理研究所（National Institute of Disaster Management（NIDM））との研究協力に関する覚書に基づき開催された。この覚書は、日・印度両国首脳による「安全保障協力に関する共同宣言」（2008年）に基づく「行動計画」（2009年）において、「地滑り災害予防に関する知見の共有」が位置づけられ、締結されたものである。本会合はインド国デリー首都圏、ウッタラーカンド州で開催された。日本側からは日本の地すべり災害の発生状況と対応、地すべり対策工事の対応事例等の発表を行い、インド側からはインドでの地すべり発生の現状と課題及び斜面安定に資する植生についての発表があり、活発な意見交換が行われた。また、National Highway72A沿いの地すべりの現地調査を行った。

## 3 日・尼 第9回研究連携ワークショップ（インドネシア：2013年8月29日～8月30日）

このワークショップは、2010（平成22）年から開始した「画像処理技術（IPT）を用いた交通量計測に関する共同研究」について得た成果を報告するセミナーを共催するものであり、インドネシア国パダララン市で開催され、インドネシア国内の行政官、民間、大学等から多数の参加があった。また、IREとの間で合意した研究連携活動のうち4分野（「画像処理技術（IPT）を用いた交通量計測プロジェクト」、「事故多発地帯対策プロジェクト」、「トンネル及び地下構造物」及び「天然ロックアスファルト・アスブトン活用プロジェクト」）についての発表及び討議、今後の研究協力についての意見交換を行った。

## 4 日・尼 第10回研究連携ワークショップ（日本：2013年10月29日～10月30日）

このワークショップは、IREとの間で合意した研究連携活動のうち2分野（「トンネル及び地下構造物」及び「天然ロックアスファルト・アスブトン活用プロジェクト」）に関して発表及び討議を行ったものであり、東京都で開催された。「トンネル及び地下構造物」では、討議を通じて両国における山岳トンネル技術に関する知見を深めた。「天然ロックアスファルト・アスブトン活用プロジェクト」では、日本の改質アスファルトのガイドライン、インドネシアでのアスブトンセンター設立に向けた課題等についての議論が行われた。また、IREの関心が高い「道の駅」に関するスタディツアーを実施し、道の駅及び道の駅との比較対象として高速道路のPA、道路沿いの商業施設を見学した。

## 5 日・越 第6回研究連携ワークショップ（日本：2013年11月1日）

このワークショップは、2010(平成22)年5月に締結した国総研とベトナム交通省交通科学技術研究所 (Institute of Transport Science and Technology(ITST))との研究協力に関する覚書に基づき、東京都で開催された。本会合では、ベトナムのわだち掘れ対策に関する技術基準策定に向けた議論、Thang Long橋の補修工事に関するベトナム側からの報告（施工後は良好である）及び日本の補修技術の適用検討、ポーラスアスファルト舗装の適用性に関する検討を行った。

1～5 企画部 国際研究推進室長 曾根 真理

## 6 日・韓 第2回都市分野研究交流会議（韓国：2013年3月19日）

このワークショップは、2012(平成24)年11月に国総研と大韓民国国土研究院 (Korea Research Institute for Human Settlements (KRIHS))との間で調印した研究協力に関する覚書に基づき、韓国安養市で開催された。本会合では、両国の行政機能移転施策及び鉄道一体型都市開発施策に関する発表・意見交換が行われた。

韓国で国の中枢機関の移転が急速に進んだ経緯や、日本で東京30km圏に地方支分局及び特殊法人を移転した経緯など、双方の国土・大都市政策に関する共通点と相違点について熱心な議論が展開された。

都市研究部 都市計画研究室長 明石 達生

企画部 国際研究推進室長 曾根 真理

## 7 第17回 MLIT / FHWA 政府間会議及び第29回日米橋梁ワークショップ（日本：2013年11月11日～13日）

MLIT/FHWA 政府間会議は、日米科学技術協力協定（交通科学技術分野）に基づく米国連邦道路庁との会議であり、交通科学技術分野における協力テーマ「橋梁等構造物」に関連し、橋梁等構造物の資産形成・管理における最新の施策動向等について情報交換を行っている。今年度は、道路橋、トンネル、舗装等の点検の法体系やリスクマネジメント及び橋梁の耐震補強に関して最新情報の交換と討議を行った。

日米橋梁ワークショップは、天然資源の開発利用に関する日米会議 (UJNR) の耐風・耐震構造専門部会作業部会G（交通システム）の活動として、日米交互開催で毎年行われている。今回は、日本にて開催され、道路橋の維持管理、点検検査技術、津波、耐震性評価などに関連する論文発表、討議及び意見交換を行った。

道路研究部 道路構造物管理研究室長 玉越 隆史、主任研究官 白戸 真大、研究官 横井 芳輝